

# メンテナンス塗料

※素材の状態によって色ムラがおこる可能性があります。 ※手塗りで2回塗装した場合、約3坪/ℓが目安となります。

## 1. 焼杉用塗料



ZT0516	¥71,000/缶 (16ℓ)
ZT0537	¥27,200/缶 (3.7ℓ)
ZT0507	¥7,800/缶 (0.7ℓ)

浮造塗装1号



ZT0716	¥71,000/缶 (16ℓ)
ZT0737	¥27,200/缶 (3.7ℓ)
ZT0707	¥7,800/缶 (0.7ℓ)

浮造塗装2号



ZT0616	¥71,000/缶 (16ℓ)
ZT0637	¥27,200/缶 (3.7ℓ)
ZT0607	¥7,800/缶 (0.7ℓ)

塗装Nブラック



ZT6316	¥108,000/缶 (16ℓ)
ZT6337	¥40,200/缶 (3.7ℓ)
ZT6307	¥10,800/缶 (0.7ℓ)

塗装BB



ZT2616	¥176,000/缶 (16ℓ)
ZT2637	¥65,400/缶 (3.7ℓ)
ZT2607	¥17,600/缶 (0.7ℓ)

水性塗装  
メタル

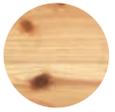


ZT2916	¥176,000/缶 (16ℓ)
ZT2937	¥65,400/缶 (3.7ℓ)
ZT2907	¥17,600/缶 (0.7ℓ)

水性塗装  
ブロンズ

※有機溶剤（トルエン・キシレン等）を含んでおりますので、内装用ではご利用いただけません。塗装される際は、適切なマスク等を必ず着用してください。  
※対象商品についてはP23～P32をご参照ください。

## 2. 自然塗料



ZTS037	¥50,000/缶 (3.7ℓ)
ZTS007	¥13,800/缶 (0.7ℓ)

自然塗装

※自然塗料商品は水気を嫌い、水分によって表面が白く変色する場合がございます。ご注意ください。  
※対象商品についてはP71～P74, P79～P80をご参照ください。

# メンテナンス商品



お手入れを正確に、簡単にできる高品質製品です。

※メンテナンス商品は直販しておりません。お求めの際はお手数ですが、施工業者様や販売店様へお問い合わせください。

## 1. ユカコート 最高級床用樹脂ワックス

高濃度タイプの特種ポリマー樹脂ですから、塗るだけで光るツヤ出し仕上剤です。すべりにくく硬く美しく、床材の色調を高め、優雅な光沢を保ち床材を保護します。

ZY1611 ¥12,000/本 (2ℓ)



〔用途〕  
白木床・緑甲板・寄木ブロック・フローリング・新建材・Pタイル・クッションフロア・その他ウレタンなどでシールされた床材・ビニールクロス・紅がら塗りの柱など

## 2. ホームクリン 強力濃縮万能洗剤

低泡性で材質を傷めず、強い洗浄力を発揮する万能タイプのクリーナーです。特に、白木の木質を傷めず、汚れを簡単に落として、木材を着色したり変色させたりしません。

ZY1711 ¥12,000/本 (2ℓ)



〔用途〕  
床材・白木の柱・なげし・かもし・天井・建具・新建材・Pタイル・クッションフロア・バス・畳・ガラス・カーペットなどの汚れ全般

## 3. ヤニカット 強力松ヤニ除去剤

松ヤニなどの樹脂を簡単に除去し、また、材木の表面を変色させたり、変質させたりすることのない除去剤です。

白木についた手垢やシールの痕、工具に付着したヤニにもお使いください。

ZY1811 ¥6,500/本 (400cc)



### ユカコート(フローリングワックス)の塗布要領

- ① 布にユカコートを含ませ、軽くしぼり、フローリングへ塗り広げてください。
- ② 表面が乾いてから(10～20分程度)①と同じように、2回目の塗布をしてください。
- ③ 乾いたらユカコートを1～2回目(下塗り)よりも量を減らし、3回目(仕上げ)の塗布をします。これにより美しいツヤと保護膜ができます。塗布量は1㎡あたり10mℓが目安です。2ℓ/本で200㎡(1㎡あたり10mℓ)が目安です。

※より美しく仕上げるためには、下塗りの塗布が完全に乾いてから(約半日で完全に乾きます)サンドペーパーで表面を軽くなで、粉を取った後、③を行うとさらに美しくなります。※ワックス剥離剤は製品の美観および品質をそこいます。絶対に使用しないでください。

※商品は、予告なしに価格を変更する場合がございますので、ご了承ください。※表示価格は税抜きです。運賃施工費含まず。

外装材

内装壁材

内装造作材

内装床材

対応可能商品

メンテナンス & 施工説明

# 木質建材を美しく保つ

ちょっとした気配りが大切です。いつまでも美しく、もっと快適に暮らしましょう。



## 光

Sunlight

### 窓際など直射日光が当たる場所で注意することは？

太陽光線(紫外線)により人間と同じで日焼けをします。そのため光が当たる部分とそうでない部分で色が異なる状態になることがありますし、同条件下でも自然木個体別に日焼けの進み方が異なる場合もあります。また、ひび割れを生じやすくなりますので、カーテンやブラインドなどで直射日光を遮るようにしましょう。

## 水

Water

木質建材は本質的に水気を嫌います。長時間の雨濡れや水濡れは、シミやカビの発生、腐れ、変色、反り、突き上げなど様々な原因になりますので、速やかに乾いた布で拭き取りましょう。また、無塗装製品の場合には、あらかじめ木質用ワックスや浸透性保護塗料などで表面を保護しておいてください。

- 窓や縁側からの雨の吹き込みに注意しましょう。
- 結露による水滴にも注意しましょう。
- 台所や洗面所など、水が飛び散りやすい場所にはマットを敷いて保護してください。
- 観葉植物などの鉢には、必ず水受け用の皿を敷いてください。

## 砂・スリッパ

Sand・Slippers

外部からの砂やスリッパの裏面に付着した異物により、床材表面を傷付ける場合があります。砂や異物を除去してご使用ください。



## 電気カーペット

Hot Carpet

電気カーペットの熱が床材に直接伝わると、床材表面の乾燥によるひび割れや継ぎ目に隙間が発生する可能性があります。電気カーペットをご使用の際には、電気カーペットと床材の間に断熱性のあるシートやカーペットなどを敷いて、熱が直接伝わらないよう保護しましょう。

## 暖房器具

Heating System

温風ヒーターや反射式ストーブなどの暖房器具をご使用の際には、熱が直接当たると表面材の乾燥によるひび割れや床壁材の継ぎ目に隙間が発生する場合があります。温風や輻射熱が直接床壁面に当たらないように小さなマットなどを敷いて保護しましょう。

## マット・カーペット

Mat・Carpet

玄関マットやカーペットなどの固定に、粘着テープ(ガムテープ、両面テープなど)の使用は避けましょう。はがす時などに床材表面を傷める可能性があります。



## エアコン

Air Conditioner

エアコン冷暖房などを長時間連続して使用すると、室内が乾燥しすぎるため、床壁材の継ぎ目に大きな隙間や表面割れを生じたりすることがあります。加湿器などで適度な湿気を補うようにしましょう。

※加湿器の吹き出し口近くの床壁材表面が水濡れして、変色やひび割れなどを発生することがあります。加湿器の位置や吹き出し口の向きにはご注意ください。床壁材表面が水濡れした場合は、すぐに拭き取りましょう。

## 重量物

Heavy Goods

ピアノや冷蔵庫などの重量物を設置する場合は、保護板などの緩衝材を敷いて重量を分散させましょう。また、移動させる時は引きずらないようにご注意ください。直接置いたり、引きずって移動するとへこみや傷の原因になります。

## 家具

Furniture

キャスター付き家具(椅子やテーブル)などを使用される場合には、ゴムキャップや適切な厚みのカーペットなどを敷いて床材表面を保護してください。移動の際に床材表面を傷付け美観を損ねたり、トゲなどによる怪我の恐れがあります。また、一般の家具(パイプ椅子やテーブル)なども同様にお考えください。

※金属製や球状キャスター付きの家具、キャスター付きの大型家具(ベッドなど)、車椅子などが走行する場所への使用は絶対に避けてください。

## 薬品

Chemicals

各種薬品やアルカリ性洗剤、灯油などをこぼすと、床壁材表面を変色など傷める可能性があります。コーヒーや醤油などをこぼした場合もすぐに拭き取りましょう。

## 湿気

Moisture

床下や押入れ内部などの湿気により、床壁材の伸び、割れ、シミ、変色などを発生することがあります。適切に換気を行いましょう。

## ペット

Pet

ペットが爪で床壁材表面を傷付けたり、排泄物でシミになったり変色する場合がありますのでご注意ください。また、排泄物で汚れた場合はすぐに拭き取りましょう。

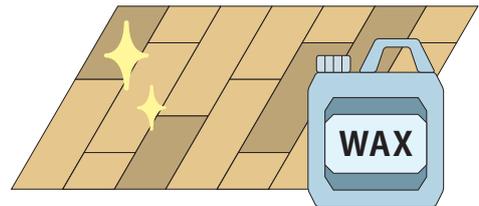
# 日常のお手入れ

長くきれいにお使い頂くための4つのポイント



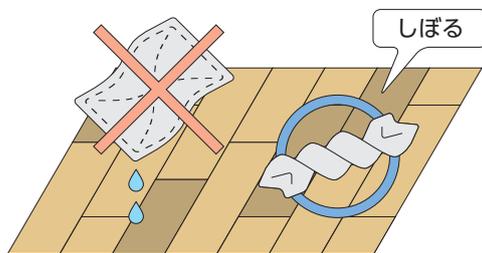
## 1 掃除機やモップで美しく

日常のお手入れはゴミやホコリを掃除機などで取り除き、乾いた布やモップで乾拭きしてください。ひどい汚れについてはホームクリン(P94参照)で拭き取ってください。



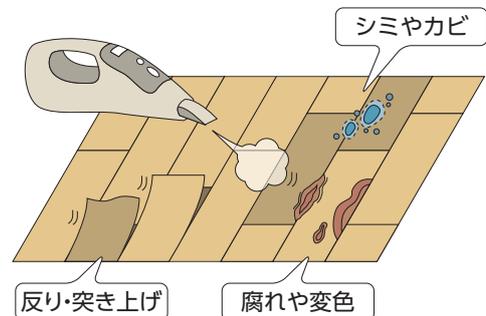
## 2 季節に一度のワックスがけ

ワックスがけは3ヶ月に一回を目安にかけられると美しさが長持ちします。推奨ワックス:ユカコート(P94参照)  
※自然塗装の場合は、使用する自然塗料の使用要項に従って、お手入れを行ってください。



## 3 水濡れは避ける

濡れ雑巾は使用しないでください。表面のひび割れなどの様々な原因になります。また、常時水のかかる恐れのある台所、洗面所などでは水切りマットをご使用ください。水に濡れたまま長時間放置されると、ひび割れや変色、シミなど様々な原因となりますので、速やかに拭き取ってください。



## 4 スチームクリーナーは使わずに

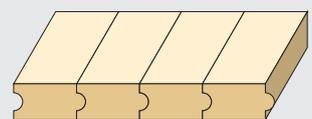
スチームクリーナーは絶対に使用しないでください。床壁材の継ぎ目や、塗装面のキズ、無塗装品の表面などから蒸気が侵入し、シミやカビの発生、腐れ、変色、反り、突き上げなどの様々な原因になります。

### 自然木だから起きること…

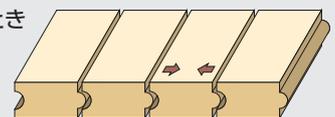
#### 床鳴りについて

床鳴りは音の程度にもよりますが、無垢床材特有の継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは木の性質としての調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので、やむを得ない現象です。商品の性能や使用上特に問題ありません。その他、水をこぼして長時間放置した場合や水気が多いお手入れをされた場合などでも起こりますので、正しいお手入れをお願いします。

湿気が多いとき



湿気が少ないとき



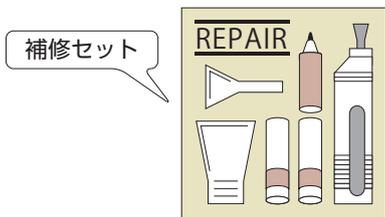
# 補修の仕方

床、壁を傷付けたり、汚してしまったら…

## 物を落したり引きずったりして傷を付けてしまった場合は

軽い傷は、床壁材用補修カラーや、補修液（ホームセンターなどの市販品）を傷部分に塗ってください。

※傷付いた床壁材をそのままにしておくと傷口から湿気や汚れが入り、傷口が拡大したり汚れが取れなくなる可能性があります。傷を付けてしまったり傷に気が付いたら、速やかにメンテナンスをお願いします。



## 火の付いたタバコなどを落として焦がした場合は

タバコやアイロンの焦げ跡は一度付くと取れません。十分に注意しましょう。また、タバコの黄色いやニは、アルコールを含ませた布で拭き取ってください。



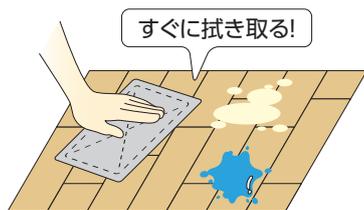
## 洗剤や灯油、コーヒーなどをこぼしてしまった場合は

薬品、洗剤、コーヒー、醤油などをこぼした場合はすぐに拭き取りましょう。時間が経つとシミになって取れなくなる場合があります。



## 靴墨や毛染剤などで着色汚れをつけた場合は

靴墨や毛染剤、除光液、家庭用パーマ液などによる汚れはすぐに拭き取ってください。放置しておくと取れなくなります。作業を始める前に、直接液体がこぼれても床壁材に影響を及ぼさない工夫をお願いします。



## お子様の落書きやインクをこぼした場合は

クレヨン、マジック、水性インクなどが付着した場合は、アルコールまたはシミ抜き用ベンジンを含ませた布で軽く速やかに拭き取りましょう。



## 小さな穴があいて木の粉が出てきた場合は

外部から木部に飛来してきた虫による虫害の可能性があります。万一発生した場合、殺虫剤にて処置をお願いします。また、速やかに専門業者に相談されることをお勧めします。

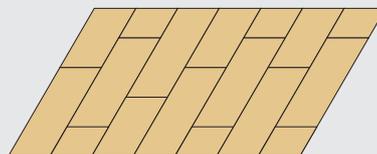


**再塗装や補修工事などは、お施主様ご自身で絶対にしないでください。**

高所作業などによる落下事故やけがの原因となりますので、再塗装や補修工事などは施工業者様にご依頼ください。

## 色のばらつき、日焼けについて

自然木は人と同様生き物であり、同じ樹種でも一本一本個性があります。色調についてもばらつくのが普通であり同じにはなりません。また、お使いいただいている間に日光（紫外線）などによって徐々に色が変わることがありますが、これも自然木特有の性質です。



自然木ならではの個性です

# 焼杉・杉羽目板 外装用 施工上の注意

必ず施工前にお読みください。

## ■施工前に以下の点をご確認ください

- ・焼杉浮造、杉とぎだし、杉羽目板外装用無塗装については無塗装品のため、外壁にご使用の際には表面などに塗装の処理を必ずお願いします。塗料は木材製品専用で、板の呼吸を妨げない「浸透性保護塗料」をお勧めします。
- ・自然木製品のため、気候、日照条件、立地条件などにより、色の違いが目立つようになることがありますので、あらかじめご了承ください。また、風雨による劣化により同様の現象が起こることがあります。
- ・ご使用前の保管につきましては、直射日光や雨水のかかる場所、および湿気の多い場所を避けて保管してください。

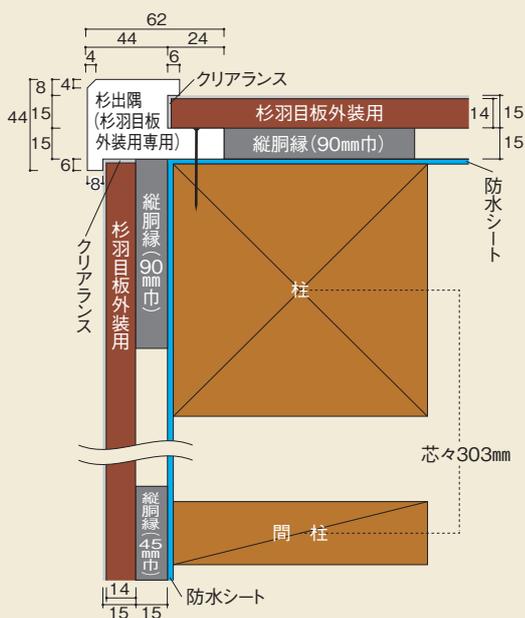
## ■安全にご使用いただくために

- ・商品を取り扱う際は、トゲなどによるけがの防止、商品の汚れ防止のため、必ず手袋を装着してください。
- ・商品を切断、切削する際は、必ず防塵マスクを装着して作業してください。
- ・木製品は柔らかく破損しやすいので、保管、移動、再梱包の際は慎重な取り扱いをお願いします。

## ■施工上のお願い

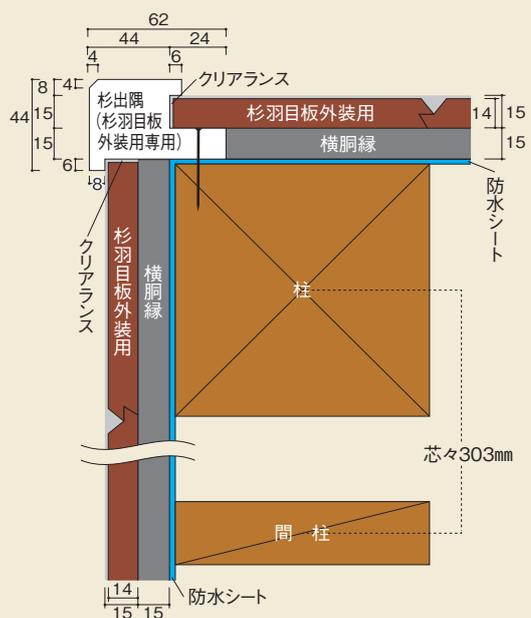
- ①自然木製品のため、一枚一枚色調、木目が異なるので、施工前には必ず仮並べをし、色調をご確認のうえ施工してください。
  - ②立地環境に応じ、クリアランス（隙間）を考慮しながら施工してください。
  - ③下地施工
    - 防水シート（厚さ0.1mm以上）を必ず使用してください。
    - 水切りを必ず使用してください。基礎などに杉の灰汁が付着し、基礎などを汚す場合があります。また、外壁の上部まで杉板を施工する場合は、同時に中間水切りやオーバーハングなども使用してください。
- 焼杉、杉羽目板外装用を横張りする場合
    - ・壁面の最下端を水平に墨出しし、基準線とします。
    - ・基準線から垂直に、303mmの間隔で縦胴縁（15mm×45mm以上）を取り付けます。
    - ・外装材の左右接合部、開口部周囲、出入隅部分の胴縁は、倍の巾（90mm）を使用してください。
  - 焼杉、杉羽目板外装用を縦張りする場合
    - ・壁面の最下端を水平に墨出しし、基準線とします。
    - ・基準線から平行に、303mmの間隔で横胴縁（15mm×45mm以上）を取り付けます。
    - ・外装材の上下接合部、開口部周囲、出入隅部分の胴縁は、倍の巾（90mm）を使用してください。

杉羽目板外装用専用出隅（横張り）施工図



※杉羽目板外装用施工時には必ず水切りを使用してください。

杉羽目板外装用専用出隅（縦張り）施工図



※杉羽目板外装用施工時には必ず水切りを使用してください。

○胴縁の固定は、長さ50mm以上の平頭スクリュー釘を使用してください。

○胴縁は乾燥したものを使用してください。反り、割れ、突き上げなどの原因になります。

○外壁リフォームの場合、既存壁内部の胴縁、柱の位置をあらかじめ墨出ししておくことで、新規胴縁の取り付けが効率よく行えます。

④下地への固定

○フィニッシュネイル（針釘）は絶対に使用しないでください。

○小口に近い箇所は必ず仮穴を施してから釘打ちをしてください。

○釘は板厚3倍以上の平頭リング釘または平頭スクリュー釘を使用してください。

○釘は脳天打ちとしてください。

○焼杉板には弊社取扱いの焼杉用釘（P22参照）を使用してください。

○釘頭が目立つ場合には、塗装色と同系色で塗装してください。

○釘を打つ位置は、各商品ページの断面図に記載しておりますので参考にしてください。

○接着剤の使用はしないでください。（割れなどの原因になります）

⑤無垢商品の場合、現場の湿度の影響を受け伸縮します。伸縮率は材質や木の元口、末口によっても一定ではありません。そのため、施工時には必ず墨出しを行い、上下左右のバランスを確認しながら施工してください。

⑥看板やエアコンの室外機など重量物を後から取り付ける場合は、外壁材に直接固定することは避けて、必ず下地に（必要なら補強して）

取り付けてください。

⑦外壁の上部まで杉板を使用される場合、杉の灰汁が外壁の下部などを汚す場合があります。あらかじめご了承の上使用してください。

（P12「免責事項について」、P19「外装用をご使用前に」を必ずご使用前にお読みください。）中間水切りやオーバーハングなどを使用することで、灰汁の汚染を軽減することが出来ます。

⑧裏面塗装（裏表面）は、施工現場の環境や条件に合わせてうえでのご判断をお願い致します。

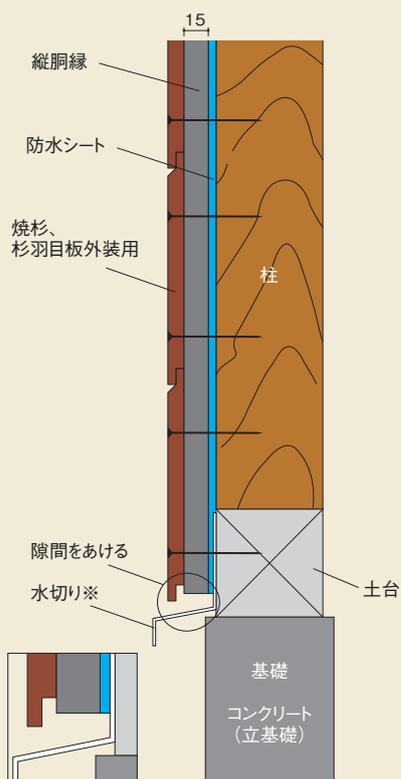
⑨切断時のササクレや塗膜のハガレを防止するため、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフなどで必ずケビキ処理を行い、ノコ、ノミ入れを行ってください。

⑩サッシ廻り及び出隅部分の納まりついて、外部水仕舞いにおいては、気候風土により施工方法が異なります。

本カタログ掲載の施工方法では一律に対応できません。

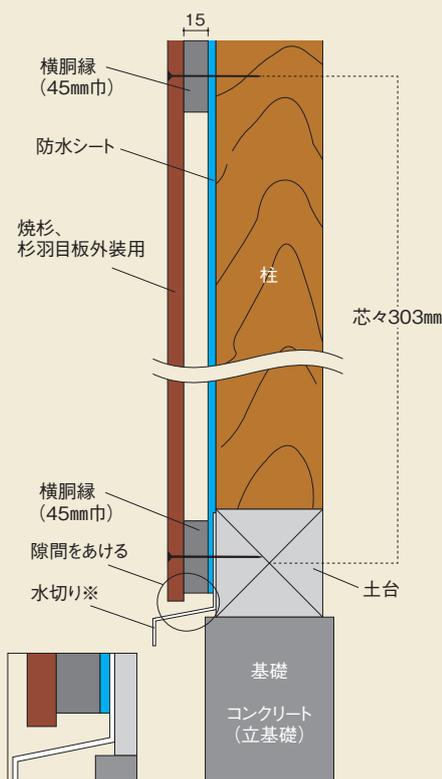
施工現場の気候風土に合った施工方法にてご対応をお願い致します。

焼杉、杉羽目板外装用（横張り）施工図



※焼杉、杉羽目板外装用施工時には必ず水切りを使用してください。

焼杉、杉羽目板外装用（縦張り）施工図



※焼杉、杉羽目板外装用施工時には必ず水切りを使用してください。

# 杉外壁・加工丸太 ジョイントウォール 施工上の注意

必ず施工前にお読みください。

## ■施工前に以下の点をご確認ください。

- ・杉外壁・加工丸太・ジョイントウォールは無塗装品のため、外壁にご使用の際には表面などに塗装の処理を必ずお願いします。塗料は木材製品専用で、板の呼吸を妨げない「浸透性保護塗料」をお勧めします。
- ・自然木製品のため、気候、日照条件、立地条件などにより、色の違いが目立つようになることがありますので、あらかじめご了承ください。また、風雨による劣化により同様の現象が起こることがあります。
- ・ご使用前の保管につきましては、直射日光や雨水のかかる場所、および湿気の多い場所を避けて保管してください。

## ■安全にご使用いただくために

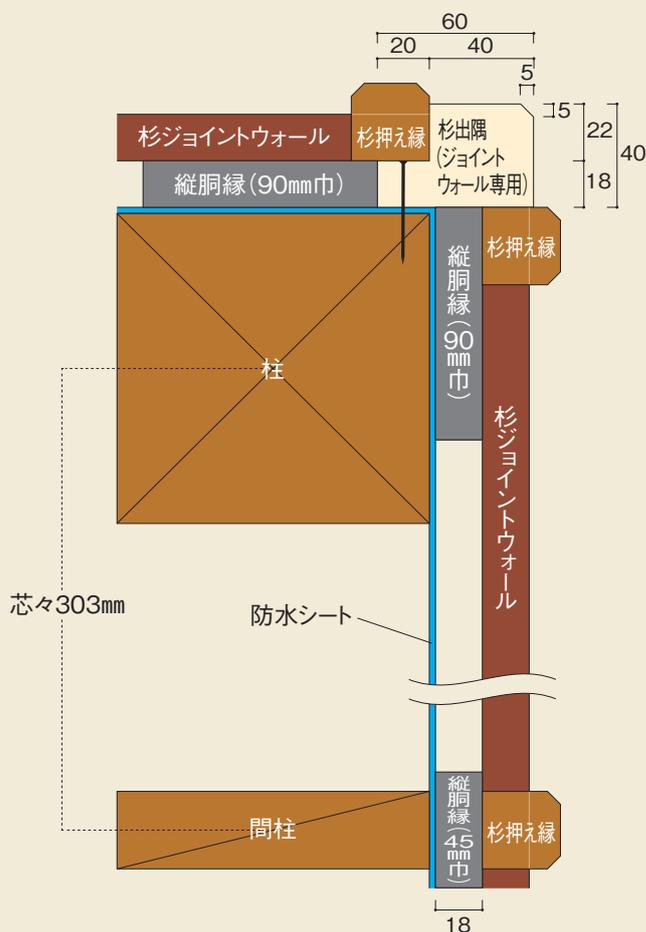
- ・商品を取り扱う際は、トゲなどによるけがの防止、商品の汚れ防止のため、必ず手袋を装着してください。
- ・商品を切断、切削する際は、必ず防塵マスクを装着して作業してください。
- ・木製品は柔らかく破損しやすいので、保管、移動、再梱包の際は慎重な取り扱いをお願いします。

## ■施工上のお願い

- ①自然木製品のため、一枚一枚色調、木目が異なるので、施工前には必ず仮並べをし、色調をご確認のうえ施工してください。
- ②立地環境に応じ、クリアランス（隙間）を考慮しながら施工してください。
- ③下地施工
  - 防水シート（厚さ0.1mm以上）を必ず使用してください。
  - 水切りを必ず使用してください。基礎などに杉の灰汁が付着し、基礎などを汚す場合があります。また、外壁の上部まで杉板を施工する場合は、同時に中間水切りも使用してください。
  - 杉外壁・加工丸太・ジョイントウォールを横張りする場合
    - ・壁面の最下端を水平に墨出しし、基準線とします。
    - ・基準線から垂直に、303mmの間隔で縦胴縁（18mm×45mm以上）を取り付けます。
    - ・外装材の左右接合部、開口部周囲、出入隅部分の胴縁は、倍の巾（90mm）を使用してください。
    - ・ジョイントウォールは動き巾の170ピッチで割付けの上、施工をお願いします。押え縁使用時は、押え縁に合わせて割付けしてください。
  - 杉外壁・加工丸太を縦張りする場合
    - ・壁面の最下端を水平に墨出しし、基準線とします。
    - ・基準線から平行に、303mmの間隔で横胴縁（18mm×45mm以上）を取り付けます。
    - ・外装材の上下接合部、開口部周囲、出入隅部分の胴縁は、倍の巾（90mm）を使用してください。
  - 胴縁の固定は、長さ50mm以上の平頭スクリュー釘を使用してください。
  - 胴縁は乾燥したものを使用してください。反り、割れ、突き上げなどの原因になります。
  - 外壁リフォームの場合、既存壁内部の胴縁、柱の位置をあらかじめ墨出ししておくことで、新規胴縁の取り付けが効率よく行えます。
- ④下地への固定
  - フィニッシュネイル（針釘）は絶対に使用しないでください。
  - 小口に近い箇所は必ず仮穴を施してから釘打ちをしてください。
  - 釘は板厚3倍以上の平頭リング釘または平頭スクリュー釘を使用してください。
  - 杉外壁・ジョイントウォールにおいては、釘を脳天打ちとしてください。
  - 釘頭が目立つ場合には、塗装色と同系色で塗装してください。
  - 釘を打つ位置は、各商品ページの断面図に記載しておりますので参考にご覧ください。
  - 接着剤の使用はしないでください。（割れなどの原因になります）

- ⑤無垢商品の場合、現場の湿度の影響を受け伸縮します。伸縮率は材質や木の元口、末口によっても一定ではありません。そのため、施工時には必ず墨出しを行い、上下左右のバランスを確認しながら施工してください。
- ⑥看板やエアコンの室外機など重量物を後から取り付ける場合は、外壁材に直接固定することは避けて、必ず下地に（必要なら補強して）取り付けてください。
- ⑦外壁の上部まで杉板を使用される場合、杉の灰汁が外壁の下部などを汚す場合があります。あらかじめご了承のうえ使用してください。（P12「免責事項について」、P19「外装用をご使用前に」を必ずご使用前にお読みください。）中間水切りを使用することで、灰汁の汚染を軽減することができます。
- ⑧裏面塗装（裏表面）は、施工現場の環境や条件に合わせてうえでのご判断をお願い致します。
- ⑨切断時のササクレを防止するため、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフなどで必ずケビキ処理を行い、ノコ、ノミ入れを行ってください。
- ⑩サッシ廻り及び出隅部分の納まりついて、外部水仕舞いにおいては、気候風土により施工方法が異なります。本カタログ掲載の施工方法では一律に対応できません。施工現場の気候風土に合った施工方法にてご対応をお願い致します。

杉外壁・ジョイントウォール専用出隅施工図



※杉・外壁・ジョイントウォール施工時には必ず水切りを使用してください。

必ず施工前にお読みください。

## ■施工前に以下の点をご確認ください。

- ・この商品は屋内専用商品です。屋外へのご使用は絶対に避けてください。
- ・浴室など水気や湿気の多い場所へ使用されると、カビの発生や腐れ、シミ、変色、割れ、反り、突き上げなどが起こる場合があります。絶対に使用しないでください。
- ・無塗装でご使用になる場合は材が湿気と乾燥の影響を受けやすくなり、伸縮、反り、ひび割れなどが発生する可能性が高くなることを事前にお施主様へご説明ください。
- ・下地材が濡れた状態での施工はやめてください。目隙、変形、割れ、反りなどの原因になります。
- ・雨風が吹き込むことの無いよう、開口部にサッシなどを取り付け後に施工してください。
- ・ご使用前の保管につきましては、直射日光や雨水のかかる場所、および湿気の多い場所を避けて保管してください。

## ■安全にご使用いただくために

- ・商品を取り扱う際は、トゲなどによるけがの防止、商品の汚れ防止のため、必ず手袋を装着してください。
- ・商品を切断、切削する際は、必ず防塵マスクを装着して作業してください。
- ・木製品は柔らかく破損しやすいので、保管、移動、再梱包の際は慎重な取り扱いをお願いします。

## ■施工上のお願い

### ●現場塗装を行う場合について

- 必ず、塗料の使用要項に基づき塗装面の木地研磨を行った上で塗装をしてください。研磨せずに塗装を行った場合、塗装ムラ、ナイフマーク（刃物の跡）が浮き出てしまう場合があります。
  - 必ず裏面も塗装してください。表面（片方）のみの塗装の場合、湿気の吸放出に偏りが生じ、反りや狂いなどの原因になります。（木口や切断面も塗装の処理をお願いします。）
  - また、床材が乾燥、収縮した時に塗装をしていない実部分が露出して目立つのを防ぐために、あらかじめ実部分まで塗装をしておいてください。自然塗装（柿渋）等をご使用の場合、木材成分と化学反応するおそれがあります。必ず試し塗りの上、ご利用ください。
- 無垢商品の場合、現場の湿度の影響を受け伸縮します。伸縮率は材質や木の元口、末口によっても一定ではありません。そのため、施工時には必ず墨出しを行い、上下左右のバランスを確認しながら施工してください。
  - 施工後の養生は、隙間無く養生をしてください。隙間があるとその部分のみ色が変わってしまい、色の違いが目立つようになりますことがあります。

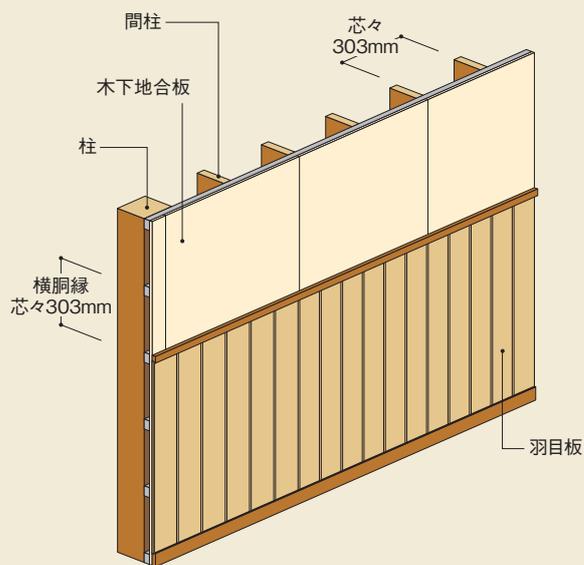
- エアコンなどを後から取り付ける場合は、羽目板に直接固定することは避けて、必ず下地に（必要なら補強して）取り付けてください。
- 切断時のササクレや塗膜のハガレを防止するため、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフなどで必ずケビキ処理を行い、ノコ、ノミ入れを行ってください。

### 〈内装用羽目板の場合〉

- ①自然木製品のため、一枚一枚色調、木目が異なるので、施工前には必ず仮並べをし、色調をご確認のうえ施工してください。
- ②多湿による羽目板の伸びを考慮し、クリアランス（隙間）を確保しながら施工してください。
- ③下地施工
  - 木下地材は人工乾燥材を使用してください。
  - 下地組みは、胴縁に12mmあるいは9mmの木質合板を捨て張りしてください。
    - ・羽目板を横張りする場合は、303mmの間隔で縦胴縁を取り付けてください。
    - ・羽目板を縦張りする場合は、303mmの間隔で横胴縁を取り付けてください。
    - ・プラスターボードを捨て張りに使用するのは絶対に避けてください。（プラスターボードには釘の保持力がないため）
- ④下地への固定
  - フィニッシュネイル（針釘）は絶対に使用しないでください。
  - ステンレス製の釘で施工してください。使用する釘の長さは、板厚の3倍程度を目安としてください。
  - 釘を打つ位置は、各商品ページの断面図に記載しておりますので参考にしてください。

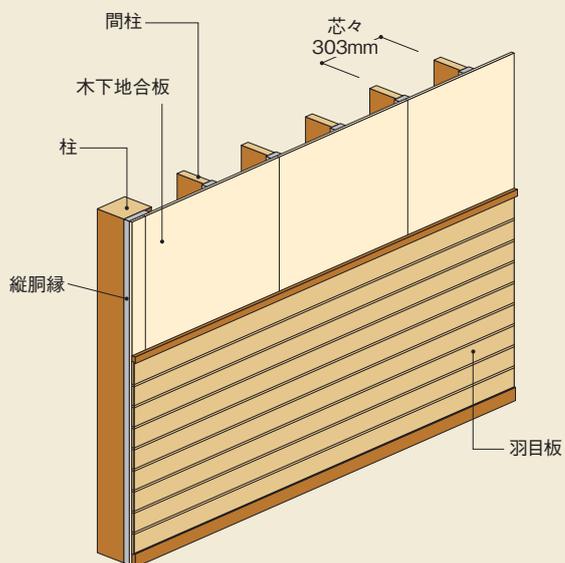
### 内装用羽目板(縦張り)施工図

●木下地合板の継ぎ目と商品の継ぎ目が一致しないようにしてください。



### 内装用羽目板(横張り)施工図

●木下地合板の継ぎ目と商品の継ぎ目が一致しないようにしてください。



# フローリング 施工上の注意

必ず施工前にお読みください。

## ■施工前に以下の点をご確認ください。

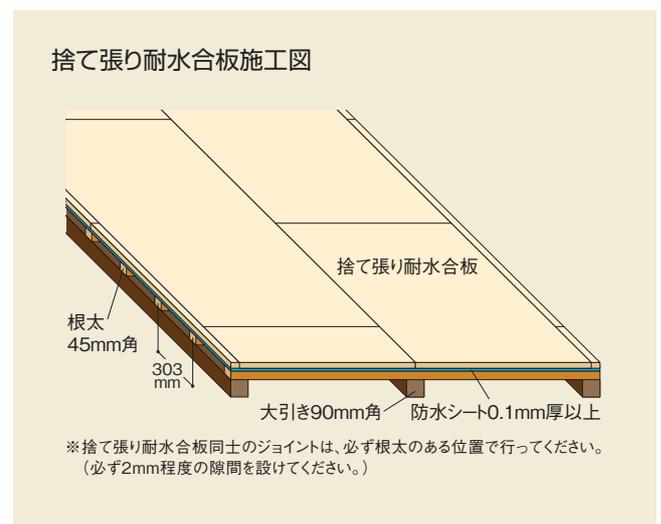
- ・この商品は屋内専用商品です。屋外へのご使用は絶対に避けてください。
- ・水気や湿気の多い場所へ使用されると、カビの発生や腐れ、シミ、変色、割れ、反り、突き上げなどが起こる場合があります。絶対に使用しないでください。
- ・無塗装でご使用になる場合は材が湿気と乾燥の影響を受けやすくなり、伸縮、反り、ひび割れなどが発生する可能性が高くなることを事前にお施主様へご説明ください。
- ・下地材が濡れた状態での施工はやめてください。目隙、変形、割れ、反り、床鳴りなどの原因になります。
- ・雨風が吹き込むことの無いよう、開口部にサッシなどを取り付けた後に施工してください。
- ・換気口は規格に合わせて設置してください。(建築基準法施行令：外壁の床下部に、長さ5m以下毎に300㎢以上の換気口設置他) 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴りなどが発生する場合があります。

## ■安全にご使用いただくために

- ・商品を取り扱う際は、トゲなどによるけがの防止、商品の汚れ防止のため、必ず手袋を装着してください。
- ・商品を切断、切削する際は、必ず防塵マスクを装着して作業してください。
- ・木製品は柔らかく破損しやすいので、保管、移動、再梱包の際は慎重な取り扱いをお願いします。

## ■施工上のお願い

- ①施工現場にて2～3日前に開梱して、現場になじませてから施工してください。
- ②自然木製品のため、一枚一枚色調、木目が異なるので、施工前には必ず仮並べをし、色調をご確認のうえ施工してください。
- ③多湿によるフローリングの伸びを考慮し、クリアランス（隙間）を確保しながら施工してください。



### ④下地施工

- 大引きは90mm角以上の乾燥材を使用し、間隔は909mmピッチとしてください。
- 根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで厚みを揃え間隔は303mmピッチで施工してください。  
※乾燥材の目安/含水率20%以下(要確認)  
※ピアノなど重量物を設置する場合は、根太の間隔を151.5mmピッチにするか、根太の間隔を303mmのまま厚さ12mm以上の耐水合板を2重に捨て張りして補強してください。
- 乾燥材を使用しないと施工後根太が乾燥し、膨れや痩せが起こり、床鳴りなどの原因になります。
- 根太の厚みが一定でないと根太高に差が生じ、床鳴りなどの原因になります。
- 床下からの湿気を遮断するため、必ず根太上に厚さ0.1mm以上の防水シートを敷き、その上に厚さ12mm以上の耐水合板を捨て張りしてください。
- 捨て張りする耐水合板は「レンガ張り」の施工をお願い致します。また、耐水合板同士は2mm程度の隙間を設けてください。
- 遮音シートは床鳴りが起こる可能性が高くなりますので、使用しないでください。

### ⑤下地への固定

- フローリングの雄実部に直接釘打ちをすると、実部が欠けたり、割れたりする場合がありますので、あらかじめドリルで直径2mm程度の下穴をあけてから釘打ちをしてください。(割れたまま施工すると床鳴りなどを生じる場合がありますので、ご注意ください。)
- 釘はフロアーネイル50mm程度のものを使用してください。釘は必ず根太まで打ち込み、根太専用ボンドとの併用施工としてください。フィニッシュネイル(針釘)は絶対に使用しないでください。

- ボンドについては一液湿気硬化型ウレタン系接着剤を使用してください。(推奨ボンド：(株)オーシカ：セレクトィ UR-20/UR-21/UR-70 もしくは、同等品にて)  
酢酸ビニル系、アクリル系エマルジョン（白ボンド）などの水性系接着剤は絶対に使用しないでください。突き上げなどの原因になります。
- 根太専用ボンドは捨て張りした耐水合板上（根太のある位置）に塗布してください。エンドマッチ部分は両方のフローリング裏面に付着するように2列塗布してください。塗布量は巾が鉛筆の太さ（5mm～6mm）程度が適量です。（150g/m<sup>2</sup>）また、養生期間は1日以上としてください。
- フローリングは根太と直交になるように張り、エンドマッチ部分のジョイントは必ず根太のある位置で行ってください。（エンドマッチ部分にも、必ずフローアーネイルを根太まで打ち込んでください。）
- 捨て張りした耐水合板の継ぎ手部分とフローリングの継ぎ手部分が一緒にならないように施工してください。
- 実は強く叩き込まないでください。（強く締め付けしないでください。）膨張時の反り、突き上げなどの原因になります。必ず名刺1枚～2枚程度の間隔を設けてください。
- 釘頭はポンチで確実に打ち込んでください。
- 壁際は突き付け施工をせず、必ず5mm～10mm程度のクリアランス（隙間）を設けてください。
- 施工時にはフローリングの表面（化粧面）に養生シートを敷き、テープで止める場合には養生テープをご使用ください。市販の布テープ、ガムテープは粘着力が向上しているため、取り除く際に表面（化粧面）をはがしてしまう場合があります。
- サッシとの接合部から結露水などが侵入すると、シミ、割れ、膨張などを発生する可能性があります。侵入を防ぐために、切断面やアングル欠き込み部分には必ず防水処理を施してください。
- 切断時のササクレや塗膜のハガレを防止するため、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフなどで必ずケビキ処理を行い、ノコ、ノミ入れを行ってください。

### ⑥現場塗装を行う場合について

- 必ず、塗料の使用要項に基づき塗装面の木地研磨を行った上で塗装をしてください。研磨せずに塗装を行った場合、塗装ムラ、ナイフマーク（刃物の跡）が浮き出してしまう場合があります。
- 必ず裏面も塗装してください。表面（片方）のみの塗装の場合、湿気の吸放出に偏りが生じ、反りや狂いなどの原因になります。（木口や切断面も塗装の処理をお願いします。）
- また、床材が乾燥、収縮した時に塗装をしていない実部分が露出して目立つのを防ぐために、あらかじめ実部分まで塗装をしておいてください。自然塗装（柿渋）等をご使用の場合、木材成分と化学反応するおそれがあります。必ず試し塗りの上、ご利用ください。

### ⑦施工後の注意

- 表面（化粧面）保護のために必ず養生シートを全面に敷いて、砂などが入らないように養生テープで止めてください。また、木材は日に焼けるため、必ず隙間のないよう全面に養生シートを敷いてください。
- 養生シートを敷いた後で継続して作業を行う際は、表面（化粧面）に引きキズやへこみキズが付かないよう、合板などを敷くことをお勧めします。
- 貼った養生テープをはがす際は、フローリングの表面（化粧面）の塗装が剥離しないよう注意しながら作業を行ってください。
- 養生シートは必ず通気性のあるものをご使用ください。

## ■床暖房対応フローリング施工上の注意

- ・発熱パネルは各メーカーの施工説明書に従って施工してください。
- ・フローリングと発熱パネルの配管方向は直交するように施工してください。その際、発熱パネルへの釘打ち位置に注意してください。漏電、漏水などトラブルの原因になります。
- ・木材には空気中の湿度が高いと湿気を吸収して伸び、乾燥してくると湿気を吐き出して縮む性質があります。床暖房使用時には一般的にフローリングが乾燥して縮むため、フローリングの継ぎ目部分で若干の間隔が開いてくる場合があります。これは木材の性質上やむを得ない現象であり、床暖房を使用しなくなると徐々にフローリングが伸びてきて間隔が小さくなります。ご了承の上、ご使用ください。

